

縁JOY

お祝い御膳やオードブルに舌鼓♪ 「地元歌手・愛海」さんの歌声に感動!

敬老の日を迎え、縁JOYでは敬老祝賀会が開催されました。今年ご利用者のご家族様もお誘いして昼食のお赤飯や天ぷらの盛り合わせ等の「お祝い御膳」、また「高座豚手造りハム」様よりオードブルの寄贈がありおいしく頂く事ができました。

祝賀会では今年祝寿を迎えられたご利用者18名が、集まった皆様の前でおひとりずつ表彰されていきます。今年100歳を迎えられる方が2名おり、また縁JOY内最年長の101歳を迎えられた方が表彰されると会場内は大きな拍手で包まれ、祝福されご本人も笑顔で応えられていました。さらにスペシャルイベント「地元歌手・愛海」さんによる歌謡ショー♪「皆さんも一緒に歌いましょう」と昭和の歌謡メドレーとして「 Gondolaの唄」や「宵待ち草」、美空ひばりさんの「みだれ髪」など懐かしの歌を、そしてデビュー曲の「愛・火のように京都」を歌われ会場は大いに盛り上がりしました。最後には記念写真を皆様と一緒に撮られ今年の敬老祝賀会は終了。忘れられない思い出が詰まった一日になりました。



柴胡苑

二人羽織で大笑い♪



柴胡苑でも敬老祝賀式を行っています。今年の最高齢は97歳、賀寿は5名の方が迎えられました。職員が挑戦した「二人羽織」では顔中がクリームだらけになり、皆で大笑い。続いての「長生きサンバ」の披露では、手拍手を頂きました。ご利用者・ご家族・職員合同で、なつかしのメロデーの大合唱で式は終了し、お楽しみのお祝い御膳へと。舟盛りに乗ったお刺身を美味しく頂きました。

防災の日 引渡し訓練

マッシュマロ保育園

マッシュマロ保育園では実際に火災、地震等の災害が起こった時に備える為に毎月1回避難訓練を行っています。9月は防災の日があり、保育園のある相模台地区では9月第1日曜日を「相模台防災の日」と定めています。

9月1日(金)ご家庭でも災害時の行動を確認して頂くために引渡し訓練を実施しました。子どもたちは、毎月1回の避難訓練に取り組んでいるだけあり、落ち着いて一時避難場所へ避難することができました。保護者の方へ事前に園庭で引渡しを行うと連絡をしていましたが、建物が崩壊する危険があることを想定し、保育園に貼り紙をして一時避難場所のふれあい広場での引渡しであることを伝えました。急な引渡し場所の変更へ驚く保護者もいましたが、貼り紙による指示通りに行動し、無事に全園児の引渡しが完了しました。



実際に災害が起きた時に「どのような方法で職場や家庭から保育園に行き、安全を確保しながら帰宅するにはどうしたらいいか。」「家族の集合場所となる避難場所はどこにするか。」など話し合い、いざという時に備えるようにしましょう。

社会福祉功労賞受賞



写真左側より
虹の家 篠崎妙子 長澤太介
たんぽぽの家 田丸功
相模はやぶさ学園 戒田英夫

相模福祉村の仲間が永年にわたり福祉職員として活躍された事に対し、相模原市より荣誉ある社会福祉功労賞を頂きました。受賞された皆様、おめでとうございます。

寄付・寄贈(敬称略・順不同)

【寄付】井上千文

【寄贈】日南厚子 内山拓治
吉川諄子 中村稔
鈴木森雄 助川由記子
高座豚手造りハム

紙面上からではございますが厚く御礼申し上げます。

▼第394号の全ての文責等は、『福祉村だより』編集委員に属します。

福祉村だより

題字 相模福祉村代表：赤間 一之

10月号No. 394 2017年10月1日発行



“Sさん”の成長が私たちの夢 後編

発行人

相模福祉村理事長 赤間 源太郎

発行所 相模福祉村たんぽぽの家

住所 相模原市中央区田名6769

電話 042-761-7788 FAX 042-763-3318

E-mailアドレス sagamifukusimura@tanpoconoie.or.jp

ホームページアドレス http://www.fukusimura.or.jp



ホームページQRコード



“Sさん”の成長が私たちの夢 後編 たんぽぽの家

先月号ではたんぽぽの家を利用され引きこもり生活だったSさんが中学校を卒業するまでをお伝えしました。Sさんは中学を卒業され、高校への進学はせずにそのままたんぽぽの家に日中活動として通うようになりました。これまでは中学生として接してきましたが、卒業を機に今後は一社会人としての自覚をSさん自身にも感じて頂けるよう取り組みました。「一人の社会人として」社会参加が出来るよう「送迎や行事」を通して、小集団から徐々に集団の輪への参加を促した支援をお伝えします。

□「送迎」での取り組み

送迎サービスについて、本人が「通える」事を優先するため他の方との送迎に不安を感じていた為に単独で送迎を行って来ました。他者との接点を作る事を意図し他の方と同乗する通常の送迎に切り替えを模索しました。今思えばたんぽぽの家での短期入所が終了し、自宅から通う生活が始まり迎へに行った時、自宅から一人で出てくることも出来ず保護者と一緒に周囲を見渡して慎重な様子が出てきたり、出てきても保育園の送迎車や知り合いがいたら背を向け固まってしまう事がありました。

したがって急に通常送迎への変更を持ちかけることなく、Sさんには何げなく相談する形で通常の送迎に乗れないかと持ちかけました。これまで通い続けてこられた頑張りを称賛し、今なら出来るのではないかな？と声をかけました。本人はしばらく迷いながらも考えている様子が伺えた為、他者の視線が不安要素であると考え不安を解消する手立てとして「他の方が見えない助手席ならどう？」「後ろを振り向かなければいいんだよ」と提案すると「助手席なら・・・」との事で通常の送迎車に乗車する事になりました。

翌日から助手席ながら乗車する事が出来、本人の成長と同時に本人も自身の変化を実感している様子が伺えました。しかし通常送迎で登園できたものの、やはり施設に入ると周囲を気にしたり、移動も職員と一緒にだったりとまだまだ課題は多くありました。次のステップとして日中の活動ではなるべく7～8人の人数で作業や活動を設定して行きました。昼食もなるべく他の方と同じ時間で摂る等の集団の中に少しずつではありますが入っていけるよう支援しました。時には他者を見て、「怖い」と泣いてしまうことや足が止まることもありましたが、その時には時間をずらしたり、慌てずに支援をすることによって徐々に集団に入れている時間が増えてきました。

□「行事」での取り組み

たんぽぽの家では1年を通じて様々な行事が行われます。その中に12月に行われる日中活動ご利用者のクリスマス会があります。我々職員はぜひとも参加してもらい、楽しんでもらいたいという気持ちでクリスマス会の内容や雰囲気等を本人に話しました。また会場には職員も一緒にいて、無理に最後までいなくてもいいという事も話しました。すると「う～ん・・・」と悩み始めました。「それは無理かも・・・だってみんないるわけでしょ」との返事でした。

初めての大人数が集まる行事参加です。本人が躊躇するのは当たり前でした。しかし、楽しみというきっかけで大人数の行事に参加できたらの思いを新たに持ちSさんに話し続けました。その熱意が伝わったのか本人から「じゃあ、できるところまで行ってみる」とうれしい言葉が聞かれました。

当日はやはり不安そうな表情で登園されました。クリスマス会が始まり本人の様子を伺いに行くとSさんがいません。職員にSさんはどこかと聞くと舞台裏に案内されました。やはりなじめなかったようでクリスマス会が始まり少し経過したところで舞台裏に行ってしまったとの事でした。しかしその行動に驚愕したりはしませんでした。むしろ舞台裏に行ってしまったもSさんが今までの自分から変わろうとしている姿や勇気を感じそれを行動に移してくれたことに感動し感激しました。Sさんに称賛を伝え彼の頑張りやこれから変わる事、変わっていける事を話しました。今回のクリスマス会では職員がSさんに「感動と感激」というプレゼントを頂きました。



その後のSさんは日が経つにつれて表情も明るく顔を下に向けている事がなくなりました。昼休みも皆で過ごすフロアで座ってられるようになり、時には職員と冗談を言い合う姿も見られました。会話自体も最初は聞かれたことに対して返事をするだけでしたが「それは〇〇じゃない？」「う～ん、このほうがいいかもね。」など自分の考えを言うようになってきました。少しずつではありますが、”Sさん”の表情や動作にもリラックス感が見られ、作業や活動にも前向きな姿もでてきました。時には意地悪かもしれませんが、「〇〇さんに声をかけてきてもらえる？」や「〇〇さんに言ってきてください。」とあえて他者とコミュニケーションをとらなくてはならない状況を作ったりもしました。その都度、「どうだった？」「ちゃんと云えた？」と彼の心境や様子を聞いていき、『今の彼なら次はここまではいける』とスタッフ同士でも周知して、成長を確認していました。

また「将棋」を職員と一緒にルールを学び、時には将棋の宿題を出したりと昼休みを楽しく過ごせるようにしました。他の方との会話は最初躊躇していましたが将棋を媒介として他の方と過ごしていただいたりすることで次第にスムーズな会話になっていきました。本人の変化の様子は見ていて嬉しい限りでした。少しずつ人との関わり、作業や運動・余暇を通じて“Sさん”自身も自分の存在や意味を感じてきたのもこの頃からでした。

□「厨房実習」に向けて

ある時にスタッフの中で「将来に向けて、彼はこのままで良いのだろうか？もっとできることが他にあるのではないかな？」と“Sさん”の将来を案じる声や可能性を伸ばせる支援に目を向けるようになりました。そんな中、たんぽぽの家の隣りにある特別養護老人ホーム「柴胡苑」^{さいこえん}での厨房の作業補助の話があり、本人にその話をすると「やってみたいです。」と前向きに了解を得ることが出来ました。後日、柴胡苑施設長との面接も行いました。仕事の内容としては洗い物やご飯やおかずの盛り付け等と簡単な仕事ですが“Sさん”にとっては初めての仕事です。また、初めての職員との関わりを心配もしましたが、今の“Sさん”なら、心配することもなく出来るかと確信し送り出しました。

時折、厨房実習を見に行くとその大変な仕事や忙しい様子でも、“Sさん”の表情や仕事ぶりはとても生き生きとしていました。教えてくれる厨房の職員からは「よくやってくれてるよ～！」や「一回言ったら、すぐ覚えて大したもんだよ！」とこちらとしても嬉しくなる言葉をいただきました。最近、“Sさん”は料理に興味を持ち始めてこれ、新たな厨房仕事にも取り組まれています。Sさんに仕事にも慣れたころ新しい夢は出来ましたかと聞いたと事「うーん、まだかなあ」との返事でした。頂いた工賃で何か買う目標はありますかと尋ねると「“かばん”かな、仕事に通う時のかばんを買う予定」との事でした。社会人としてゆっくりですが一步一步確実に前に進んでいる“Sさん”、これからも応援しています。

報告者 たんぽぽの家 支援課主任 高土智則



今では包丁作業も任されています



柴胡苑の方々と今回の記事の報告者：高土智則と共に